

30【P2】I -339

Aspergillus 属の海洋真菌から得られた新規神経突起伸展活性物質の構造
○塚本 佐知子¹, 三浦 俊亮¹, 山下 裕子¹, 太田 富久¹(¹金沢大薬)

【目的】海洋微生物由来の生物活性物質探索の一環として、イガイから分離した *Aspergillus* 属真菌の代謝産物について検討した。その結果、神経突起伸展活性を有する新規物質を単離したので、その構造について報告する。

【実験・結果】培養菌体を MeOH 抽出し、エキスの EtOAc 可溶画分を Hexane-90% MeOH-H₂O で分配した。高極性画分が PC-12 細胞に対する神経突起伸展活性を示したので、その画分を逆相カラムクロマトグラフィー、および、逆相 HPLC を用いて精製し化合物 **1** を得た。**1** の構造を NMR などの機器スペクトルを用いて決定したところ、新規化合物であったので aspermytin A と命名した。絶対配置は、**1** から合成したジベンゾエート誘導体の CD スペクトルにおいて観察された正の Cotton 効果に基づき決定した。また、50 μM の **1** で PC-12 細胞を 2 日間処理することにより、約 50% の細胞に神経突起の伸展が観察された。

